

2016 年度 入学 試験 問題

日本史 B

(試験時間 10:30~11:30 60分)

1. この冊子は、出願時に選択した科目の問題冊子です。科目名を確認のうえ、解答してください。
2. 解答用紙は、記述解答用紙のみです。
3. 解答は、必ず解答欄に記入してください。解答欄以外に書くと無効となりますので注意してください。
4. 解答は、HBの鉛筆またはシャープペンシルを使用し、訂正する場合は、プラスチック製の消しゴムを使用してください。
5. 解答用紙には、受験番号と氏名を必ず記入してください。

I 次の〔A〕～〔C〕の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(30点)

〔A〕 中国では、589年に隋が国内を統一して強大な国家を形成し、周辺の国々に大きな影響をあたえていた。ヤマト政権では607年に小野妹子を遣隋使として派遣した。これに対し隋は、翌年隋の使者として [1] を派遣した。ヤマト政権は、遣隋使とともに留学生・学問僧も派遣し、中国の政治・制度や学問・宗教などを学ばせた。彼らが中国でえた知識や経験は、のちに国政の改革などで大きな役割を果たすことになった。

618年に隋が滅んで唐がおこると、朝廷は630年に第1回の遣唐使を派遣した。その後唐との関係が悪化したため一時中断されたが、702年に遣唐使を復活させた。

〔B〕 平治の乱後、平清盛は [2] 上皇を支えて昇進し、1167年には朝廷の最高の役職である [3] となり、娘徳子を [4] 天皇の中宮に入れた。一族もみな高位高官にのぼり、平氏が政治の実権を握った。清盛は西国の武士たちを家人として配下に入れ、瀬戸内海の航路を整備したり、 [5] 国の大輪田泊を改修し日宋貿易の拡大につとめた。

〔C〕 足利義満は、1401年明に使者を派遣して皇帝から日本国王を認められた。義満の外交は朝貢形式をとったため多くの批判をよび、4代將軍 [6] はいっただん中止したが、6代將軍 [7] がこれを再開した。

再開後の日明貿易は、幕府政治の衰退にともなって、博多商人を背景としていた [8] 氏や、堺商人と結んだ [9] 氏に実権が移った。両者は貿易の主導権をめぐる抗争し、1523年には [10] で双方の船団が衝突するにいたった。

問(1) 空欄 [1] ~ [10] に当てはまる語句を、漢字で解答欄に記入しなさい。

問(2) 下線部①の「留学生」で、640年に帰国し、のち国博士となり中国の制度や文化について新知識を伝えた人物は誰か、その名前を漢字で解答欄に記入しなさい。

問(3) 下線部②の「遣唐使」として、630年、薬師恵日らとともに入唐し、その翌々年帰国した人物は誰か、その名前を漢字で解答欄に記入しなさい。

問(4) 下線部③の「使者」として当てはまる人物を下記の語群から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

(ア) 阿知使主 (イ) 明恵 (ウ) 重源 (エ) 源信 (オ) 祖阿

問(5) [A]に関連する下記の史料(適宜書き下し等の修正をしています)の2つの空欄aには、同じ語句が入ります。空欄に当てはまる語句を漢字で解答欄に記入しなさい。

大業三年、其の王多利思比孤、使を遣して朝貢す。……其の国書に曰く、「日出づる処の , 書を日没する処の に致す。恙なきや、云々」と。帝、之を覽て悦ばず。鴻臚卿に謂ひて曰く、「蛮夷の書、無礼なるものあり、復た以て聞する勿れ」と。……

問(6) [B]に関連する下記の史料(適宜書き下し等の修正をしています)の下線部「入道相国」とは誰か、下記の語群から選び、その記号を解答欄に記入しなさい。

……六波羅殿の御一家の君達といひてしかば、花族も榮耀も面をむかへ肩をならぶる人なし。されば入道相国のこじうと、平大納言時忠卿ののたまひけるは、「此一門にあらざらむ人は皆人非人なるべし」とぞのたまひける。かゝりしかば、いかなる人も相構えて其ゆかりにむすぼれむとぞしける。……

- (ア) 平重盛 (イ) 平忠盛 (ウ) 平清盛 (エ) 平正盛
(オ) 平宗盛

II 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(20点)

元禄時代に経済がめざましく発展すると、それまでの公家・僧侶・武士や特権的な町人などだけでなく、一般の町人や地方の商人、また有力百姓まで、さまざまな人々が文化を担うようになった。

大坂の町人である 1 は、『好色一代男』などの好色物をはじめ、武家物、町人物といわれる小説を著した。他方、武士出身であった 2 は、『国性(姓) ① 爺合戦』のように、現実の社会や歴史を題材として人形浄瑠璃や歌舞伎の脚本を著していった。

絵画の分野でも、京都では 3 が、③ 建仁寺の「風神雷神図屏風」を描いた画家の装飾的な画法を取り入れて、琳派をおこした。また、江戸では、4 が、代表作である「見返り美人図」などの④ 浮世絵を始め、大きな人気を得た。

他方で、この時期の幕藩体制の安定とともに儒学が発展するが、これは合理的で現実的な考え方という点で、他の学問にも大きな影響を及ぼした。そのなかで朱子学者である新井白石は、⑤ 多くの著作を著す一方で、自らも⑥ 現実の政治にも深くかかわった。

問(1) 空欄 1 ~ 4 に当てはまる最も適切な人名を、漢字で解答欄に記入しなさい。

問(2) 下線部①について、1 の人物が著した町人物に当てはまるものを、下記の選択肢から過不足なく選んで、記号をすべて解答欄に記入しなさい。

- (ア) 曾根崎心中 (イ) 世間胸算用 (ウ) 武家義理物語
(エ) 仮名手本忠臣蔵 (オ) 日本永代蔵

問(3) 下線部②は、中国のある王朝末期の遺臣をモデルにしたと言われている。この王朝を、漢字1文字で解答欄に記入しなさい。

問(4) 下線部③建仁寺の「風神雷神図屏風」を描いた画家とは誰か。最も適切な人名を、漢字で解答欄に記入しなさい。

問(5) 下線部④浮世絵について、18世紀以降の浮世絵として当てはまらないものを、下記の選択肢から1つ選んで、記号を解答欄に記入しなさい。

- (ア) 五常 (イ) 当時全盛美人揃 (ウ) 富嶽三十六景
(エ) 秋冬山水図 (オ) 名所江戸百景

問(6) 下線部⑤について、新井白石の著作を、下記の選択肢から過不足なく選んで、記号をすべて解答欄に記入しなさい。

- (ア) 政談 (イ) 経済録 (ウ) 本朝通鑑 (エ) 西洋紀聞
(オ) 聖教要録

問(7) 下線部⑥について、新井白石の行った政策として最も適切な説明を、下記の選択肢から1つ選んで、記号を解答欄に記入しなさい。

- (ア) 綱吉政権は、金の含有率を上げた元禄小判を鑄造したが、白石はこれを改め、慶長小判と同率の正徳小判を鑄造させて、物価の下落を抑えようとした。
- (イ) 綱吉政権は、金の含有率を上げた元禄小判を鑄造したが、白石はこれを改め、慶長小判と同率の正徳小判を鑄造させて、物価の騰貴を抑えようとした。
- (ウ) 綱吉政権は、金の含有率を下げた元禄小判を鑄造したが、白石はこれを改め、宝永小判と同率の正徳小判を鑄造させて、物価の騰貴を抑えようとした。
- (エ) 綱吉政権は、金の含有率を上げた元禄小判を鑄造したが、白石はこれを改め、宝永小判と同率の正徳小判を鑄造させて、物価の下落を抑えようとした。
- (オ) 綱吉政権は、金の含有率を下げた元禄小判を鑄造したが、白石はこれを改め、慶長小判と同率の正徳小判を鑄造させて、物価の騰貴を抑えようとした。
- (カ) 綱吉政権は、金の含有率を下げた元禄小判を鑄造したが、白石はこれを改め、慶長小判と同率の正徳小判を鑄造させて、物価の下落を抑えようとした。

Ⅲ 次の〔A〕,〔B〕,〔C〕の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(30点)

〔A〕

明治時代は、日本社会が封建社会から近代社会へと大きく発展を遂げた時代である。この歴史的発展を政治体制、政治制度の側面からみると、封建社会の幕藩体制からさまざまな制約をもちつつも近代国家へと移行したプロセスとして捉えることができる。鳥羽・伏見の戦いから箱館の の戦いにおける榎本武揚らの敗北にいたる戊辰戦争によって、新たな社会体制をめざす官軍と旧幕府勢力との軍事的衝突は終了した。

封建社会の政治体制である幕藩体制は、1867年の將軍徳川慶喜による大政奉還、1869年の4藩主による版籍奉還の申し出をへて、最終的に1871年の廢藩置県によって解体・消滅させられた。一時的に新政府によって知藩事に任じられていた旧藩主は旧支配領域での実権を奪われ、東京在住を命じられた。中央政府が派遣する府知事・県令が地方行政を行うことにより、近代国家の一側面をなす国家的規模での政治的統一が実現された。

これと並行して、封建社会の身分制度である士農工商制が廃止された。かつての支配階級であった藩主・公家は華族、幕臣・藩士は士族とされた。華族・士族は当初政府から秩禄を与えられていたが、1873年に秩禄 の法が定められ、さらに1876年の秩禄の全廃により従来の経済的特権を失った。非支配階級であった農民や商工業者は平民とされた。平民は、苗字をもつことや旧支配階級からなる華族・士族との通婚が許されたばかりではなく、職業と の自由が認められることにより、近代社会における自由な経済活動の基礎が築かれた。

〔B〕

近代国家は、憲法に基づいて政治が行われる立憲主義の政治体制であり、封建国家と政治の根本原理が異なっている。日本では、1889年に最初の憲法である大日本帝国憲法が発布された。だが、それは、天皇が である国民に授けた欽定憲法であるだけでなく、主権者である天皇が、国民が選出した議会に優越して権力を集中している点でも、制約をもった近代憲法であった。内閣を構成する各国务大臣は、議

会に対してではなく天皇に対して責任を負い、とくに、軍隊は天皇に直屬しており、^③議会だけではなく内閣からも独立した特別な存在であった。

この大日本帝国憲法の成立過程は、維新政府をめぐる諸政治勢力の権力争いを反映して複雑な過程をたどった。欧米流の自由と民権を求めて1870年代～80年代に日本の政治過程に大きな影響を及ぼした自由民権運動の起点の一つは、征韓論争で敗れ下野した板垣退助・後藤象二郎などが、1874年1月に政府に提出した民撰議院設立建白書であった。これを支持する民権派の新聞や雑誌による政府批判に対して、新政府は一方で自由民権運動に弾圧を加えるとともに、他方で懐柔策をとり、その中心メンバーであった板垣退助や木戸孝允の参議復職を条件に、1875年4月に「漸次⁵を樹立する」詔勅を出した。国会の開設や憲法の制定をめぐる対立は新政府部内でも激化した。明治14年の政変では、早期に国会を開設しイギリス流の二院制に基づく⁶内閣制をめざす大隈重信が、伊藤博文や岩倉具視らによって民権派に同調したとして政府から排除された。他方で、伊藤らは国会開設の勸諭を出して、運動の鎮静化を図ろうとした。^④

〔C〕

富国強兵策をとった明治政府の対外政策は、一方では、徳川幕府が欧米諸国と結んだ不平等条約を改正し、近代法治国家として列強諸国と対等平等な国家関係を築くことであった。不平等条約の基本的内容は、これらの諸国との貿易に際して日本が関税を自主的に決めることができないことと、これらの諸国に治外法権を認めていることであった。不平等条約の改正交渉は紆余曲折を経たが、治外法権の撤廃は、日清戦争直前の1894年7月の日英⁷条約で実現された。だが、関税自主権はこの段階では部分的に回復されたにすぎず、その全面的な回復は日露戦争後の1911年3月の第二次条約改正を待たねばならなかった。^⑤

これと並行して、明治政府はアジア大陸への侵略の手がかりとして朝鮮の支配を系統的に強化しようとした。1876年の日朝⁸条規によって開国した朝鮮では、明治維新をモデルに急速な近代化をめざす急進的改革派と宗主国である清国との関係を維持して漸進的な近代化をめざす穏健的改革派との対立が激化し、清国と日本から派遣された軍隊も関与して1882年と1884年に連続して権力闘争が発生した。1885

年の天津条約で日清両国はいったん朝鮮から撤兵したが、1894年に起きた宗教団体の東学（党）を中心とした 戦争をきっかけに、日清両国は朝鮮へ出兵し日清戦争が勃発した。日清戦争の勝利で清国の朝鮮に対する宗主権を否定した日本は、その後朝鮮を1905年の第二次日韓協約により保護国化し、最終的に 1910年に韓国併合条約を強制し、朝鮮総督府を設置した。^⑥

問(1) 空欄 ～ に当てはまるもっとも適切な語句を解答欄に書きなさい。

問(2) 下線部①の4藩主は、薩摩藩、長州藩、土佐藩の藩主のほかにあと一つ何藩の藩主であったのか、藩名を解答欄に書きなさい。

問(3) 下線部②に関連して、廃藩置県が行われた当初には県は何県あったか。下記の選択肢のなかからもっとも適切なものを選び、その記号を解答欄に書きなさい。

(ア) 40 県 (イ) 114 県 (ウ) 220 県 (エ) 302 県 (オ) 417 県

問(4) 下線部③に関連して、天皇と軍隊とのこの関係は、軍隊の()権の独立と呼ばれている。()に当てはまるもっとも適切な語句を解答欄に書きなさい。

問(5) 下線部④に関連して、国会は何年に開設されると約束されたか。下記の選択肢のなかから適切なものを選び、記号を解答欄に書きなさい。

(ア) 1886 年 (イ) 1888 年 (ウ) 1890 年 (エ) 1892 年
(オ) 1894 年

問(6) 下線部⑤に関連して、この条約改正交渉を行った外相は誰か。解答欄にその氏名を書きなさい。

問(7) 下線部⑥に関連して、朝鮮総督府が置かれた京城の元の都市名は何であったか。下記の選択肢のなかから適切なものを選び、記号を解答欄に書きなさい。

(ア) 平城 (イ) 漢城 (ウ) 洪城 (エ) 釜山 (オ) 木浦

IV 次の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。(20点)

1953～54年にかけて、造船会社と政界有力者との贈収賄関係が暴露されたが、法相^①が指揮権を発動して、自由党幹事長 [1] の逮捕を抑えた。この事件により吉田内閣批判が強まるなか、鳩山一郎らは離党し [2] を結成した。

一方、社会党は1955年の総選挙で左派、右派あわせて3分の1の議席を確保し、10月に両派の統一を実現した。保守陣営も、財界の要望を背景に11月に保守合同がなされた。^②

1955年には、総評を指導部として各産業の労働組合がいっせいに賃上げ要求の闘争を行う [3] 方式がはじまり、次第に定着していった。さらに、1955年には財界諸団体が政府の援助を受け、[4] が設立された。この機関は労使協調・失業防止・成果の公正配分の原則を掲げた。

1955～73年のあいだ、日本は急テンポの成長を続け、GNPで資本主義国ではアメリカに次ぐ第2位に達した。^④この時期、大企業は長期的経営戦略にたち、終身雇用制と [5] 賃金を定着させた。

問(1) 空欄 [1] ～ [5] に適切な用語を漢字で解答欄に記入しなさい。

問(2) 下線部①に関して、この法相の名前として、最も適切なものを下記の選択肢から選んで、解答欄に記号で答えなさい。

- (ア) 稲葉修 (イ) 田中耕太郎 (ウ) 秦野章 (エ) 犬養健
(オ) 河野一郎

問(3) 下線部②に関して、社会党が統一されたときの委員長の名前として、最も適切なものを下記の選択肢から選んで、解答欄に記号で答えなさい。

- (ア) 浅沼稻次郎 (イ) 鈴木茂三郎 (ウ) 江田三郎 (エ) 西尾末広
(オ) 河上丈太郎

問(4) 下線部③に関して、総評はある労働組合の全国組織が共産党の影響下にあることを批判し、反共民主労組として結成されたものである。この労働組合の全国組織として最も適切なものを下記の選択肢から選んで、解答欄に記号で答えなさい。

- (ア) 中立労連 (イ) 総同盟 (ウ) 産別 (エ) 全労連
(オ) 全労協

問(5) 下線部③に関して、1964年に総評議長は池田首相と公務員給与を民間に準じることによって合意した。このときの議長の名前として、最も適切なものを下記の選択肢から選んで、解答欄に記号で答えなさい。

- (ア) 太田薫 (イ) 岩井章 (ウ) 高野実 (エ) 塩路一郎
(オ) 鍋山貞親

問(6) 下線部④に関して、資本主義国で第2位に到達した年として最も適切なものを下記の選択肢から選んで、解答欄に記号で答えなさい。

- (ア) 1962年 (イ) 1964年 (ウ) 1966年 (エ) 1968年
(オ) 1970年

